

本日の例会（第2362回）

平成31年2月26日(火)

予 定 行 事



★卓 話 テーマ「デジタル時代のIoT/AIの活用方法」

卓話者：十河 元生 会員

略 歴：入会年月日：1985年3月12日

生年月日：1940年2月2日

職 業：協和テクノロジズ株式会社 取締役議長

職 業 分 類：電気・通信

ロータリーでの活動歴

2000～'02年度	会報雑誌副委員長	2003～'07年度	社会奉仕委員会
2007年度	国際奉仕委員長	2008年度	親睦活動委員会
2009年度	会員増強・選考委員会	2010年度	米山奨学会
2011年度	国際奉仕委員会	2012年度	ロータリー財団
2013～'14年度	S A A	2015年度	青少年奉仕委員会
2016～'18年度	会報広報委員会		

趣 味：海外旅行、散歩

光源氏のこと

島根大学名誉教授 芦田 耕一

一、生い立ち

母 桐壺更衣（更衣は女御につぐ夫人。桐壺は内裏の建物名でそこに更衣が住む）

父 桐壺の帝（みかど） 桐壺更衣との関係でこう呼ばれる。

「桐壺」巻冒頭「いづれの御時にか、女御更衣あまたさぶらひたまひける中に、いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。はじめより我はと思ひあがりたまへる御方々、めざましきものにおとしめそねみたまふ」（どの帝の御代であったか、女御や更衣が多くいた中でたいして重々しい家柄ではないが、格別に寵愛をうけている女性がいた。はじめから私はと自負していた方々は彼女を目のかたきにし、さげすみもした）→寵愛をうけた女性が桐壺更衣

中国の玄宗皇帝が楊貴妃一人を寵愛したため国が乱れたが、この二の舞になるのを人々は心配するほどであった。

光源氏が三歳の時に、周囲のいじめによる心労のあまり母は没する。源氏は母の面影を求め続ける。

(裏面につづく)

次回例会のお知らせ [第2363回・平成31年3月5日(火)]

★お誕生日のお祝い

★お食事は松花堂弁当です。

★卓話予定

★例会場 3F 京都の間

・テーマ：「熱気と錯乱の昭和」

・卓話者：杉本 侃 会員

★定例理事会⑨ 13:40～ 事務局（理事会構成メンバー）

- ・来客紹介 (2月19日) 11名
(2660地区内 10名・地区外 0名・ゲスト 1名)
- ・出席報告

例会回数	第2358回	第2359回	第2360回	第2361回
例会日	1月22日	1月29日	2月5日	2月19日
会員総数	41名	41名	41名	41名
出席免除会員数	14名	14名	14名	14名
欠席会員数 (内、出席免除会員数)	14名 (7名)	15名 (7名)	16名 (8名)	9名 (6名)
出席率	70.59%	76.47%	80.64%	〇〇%
修正出席率 (メーキャップ数)	82.35% (4名)	95.12% (2名)	_____	_____

・ラッキーくじ

賞品名 『デパート商品券』
 賞品提供者 阿江 秀典 会員
 当選者 小嶋 敦 会員
 高士 誠司 会員
 参加者数 19名

・卓話

テーマ「光源氏のこと」
 卓話者：芦田 耕一 氏 (藤岡 靖夫 会員 紹介)

・その他

ロータリーデイのご案内 (4/6)
 ……大阪アーバンRC

会員名 ニコニコ事由

- 小嶋 敦 =ラッキーカード当選
- 井上 芳郎 =ラッキーカード当選
- " =小嶋さん、京都マラソン完走おめでとうございます。
- 藤岡 靖夫 =卓話当番
(大阪アーバンRC)
- 宮本 里恵 会員 =本日、4月6日ロータリーデーの案内に参りました。よろしく願います。
- 古市 仁 =一雨降って春の到来ですかね。
- 尾下 千明 =高士さんに引き止められました。
- 近藤 治郎 =寒いですね。
- 竹井三千彦 =お隣りさんにも困ったものですが、そこで一句。「世の中に 蚊ほどうるさきものは無し ムンムムンム (文、文) と夜も寝られず。
- 小山 登 =吉岡会員、お世話になりました。ありがとうございました。
- 浦野 修明 =よき春を早く来ます様に。
- 弓田 浩司 =中国の旧正月やと明けました。
- 芦谷 裕一 =尾下さん、藤岡さん、竹井さん、有難うございました。楽しかったです。
- 柴崎 秀樹 =小嶋さん、京都マラソン完走おめでとうございます。なのに、逆に大変ごちそうになりまして…小嶋さん、井上さん、三宅さん、色々ありがとうございます。
- 高士 誠司 =小嶋さん、京都マラソン激走おつかれさまです。完走おめでとうございます。
- 三宅 有 =SAAに声をかけられて。
- 隅防 嘉之 =SAAに声をかけられて。
- 妙中 茂樹 =SAAに声をかけられて。
- 阿江 秀典 =皆様、いつもニコニコありがとうございます。

(表面のつづき)

帝も更衣を追慕し、更衣に似ると噂された藤壺女御を入内させる (藤壺は建物名)。

「世の人光る君と聞こゆ。藤壺ならびたまひて、御おぼえもとりどりなれば、かかやく日の宮ときこゆ」→帝の源氏と藤壺女御へのご寵愛は優劣がなく、しかもともに容貌がすぐれていたもので、世人は「光る君」「かかやく日の宮」と呼ぶ。

二人はのちに密通するが、二人を併称させるのはこの伏線ではないか。

二、臣籍降下

源氏は次男、長男は異腹の後の朱雀天皇。

次男であるから、普通ならばそのまま皇族で親王になる (天皇候補として)。

七歳ころ、来朝していた高麗の人相見が「この人は帝王となるべき相はあるが、帝王となつてはならない。だがまた臣下で終わる人ではない相を持っている」と予言。

→父帝は政争の種になること (長男とのからみ。たとえば、長男をさしおいて天皇になる) を恐れて臣籍 (臣下の身分。皇族以下の者) に下し、源姓を与える。臣下となった光源氏は役人 (国家公務員) としての生活を始め、出世街道を走り続け、太政大臣、准太上天皇にまで上りつめる。

皇族を離脱したことは源氏に負い目を与えなかったであろうか。(私の疑問です)